



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 49 No. 4
August 2024**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース Contents

日本毒性学会からのお知らせ

理事長就任の御挨拶	39
榎本眞先生のご逝去の報に接して	40
熊谷嘉人教授の「佐藤哲男賞」受賞を祝う	41
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第4報）	42
第52回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報）	44
第51回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	45
2025年度日本毒性学会 学会賞候補者推薦要領	46
2025年度日本毒性学会 特別賞候補者推薦要領	47
2025年度日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）候補者推薦要領	48
2025年度日本毒性学会 学会貢献賞候補者推薦要領	49
2025年度日本毒性学会 奨励賞候補者推薦要領	50

その他のお知らせ

第31回日本免疫毒性学会学術年会	51
日本動物実験代替法学会第37回大会のご案内	51

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

理事長就任の御挨拶

日本毒性学会理事長 広瀬 明彦



この度、第18代日本毒性学会理事長を拝命した広瀬明彦（(一財)化学物質評価研究機構）です。2024年7月からの2年間務めさせていただきますことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

2020年には学術年会長として年会のオーガナイズを仰せつかったところですが、今回は毒性学会全体の運営を携わることとなり、より大きな責任を感じているところです。2020年からのコロナ禍で危ぶまれた学会運営に対しては、初のWebのみによる学術年会を企画するということをはじめとして、学会活動にオンラインシステムを導入するとうことで学会に貢献させていただきました。その後、理事や各種委員会委員を含む全学会員及び賛助会員の皆様の活躍により、年会の運営や各種行事もコロナ禍以前の状況に回復してきたところではありますが、対面を重要視しながらも効率的なIT環境を使いこなす必然性が増すというポストコロナに伴う新たな課題も浮き彫りになってきていると感じております。

定款に定められた毒性領域の研究の進歩発展を図る目的においては、化学物質を含む様々なストレスが生体に及ぼす反応を明らかにする基礎研究を推進することが最も重要であることは論を待たないところですが、毒性学の目標の一部である安全性評価に対しては、応用学や社会学の観点も含む複合領域的な研究との連携も重要となります。つまり多様な領域の知識を取り入れると共に、多様な集団に属する人とのコミュニケーションが重要であると考えます。このような多様性を重視する活動は、昨今の持続可能性のある開発目標（SDGs）にとっても必要なものであると考えられており、日本毒性学会のSDGsにとっても重要な位置づけであると思います。

前述したIT環境を効率的に使いこなすためにも、多様性のある活動方針が必要となっていると考えます。務台前理事長からの申し送り事項である若手や女性研究者が活躍しやすい学会とするための運営の改良（「改革」でもよいが強すぎるかも）に持続的に取り組んで行くことは多様性に関する重要課題の一つであると考えます。また、多様性という意味において、これまでも取り組んできた国内他学会との連携強化や国際活動へさらなる貢献を進めていくことは当然の流れであると思われれます。加えて、これまでも学会として力を入れて取り組んできた各種講習会や認定トキシコロジスト制度をポストコロナの中で適正に運用していくことも常に意識しておく必要があります。

今般、理事長を拝命するにあたって、これらの多様性のある学会活動を維持していくための効率的なIT環境としては、新たなコミュニケーションツールの導入が欠かせないと感じています。すなわち、毒性学の各種学会事業における知識の習得や意見交換、国内外の幅広い情報収集方法等に関して、より迅速な方法でアクセスできるような仕組みに改良していくことも一つの目的として掲げたいと思います。例えば現状のホームページやメールに加えて、より効率的に学会員と情報共有ができるようなシステムの導入を検討したいと思います。このような情報共有の構造的な改善により持続可能で発展的な学会の基盤を作ることが今期の使命の一つであると考えておりますので、これまで同様、日本毒性学会員の皆様のご支援ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

2024年7月30日

日本毒性学会理事長 広瀬 明彦

榎本眞先生のご逝去の報に接して

日本毒性学会名誉会員榎本眞先生におかれましては、令和6年3月30日に95歳にてご逝去されました。榎本先生は日本毒性学会の発足初期に病理学のお立場から毒性学の発展にご貢献されました。ご縁のあった先生方もたくさんおられることと存じますが、前理事長として榎本先生のご業績の一部をご紹介させていただき、追悼文に代えたいと思います。

榎本眞先生は1952年に東京大学医学部医学科をご卒業され、その後同大学大学院博士課程修了後、同大学医学部病理学教室助手、同大学医科学研究所助教授、聖マリアンナ医科大学病理学教授を歴任された後、人体病理医として活動をつづけながら食品農医薬品安全性評価センター及び日本バイオアッセイ研究センターの病理部長を歴任されました。その間、榎本先生はマイコトキシンによる発がん性に関して数々の研究業績を挙げられ、また毒性病理学に関するアトラス及び学術書や毒性学の立場から化学物質の功罪を論じた一般書を執筆されました。

本学会事務局の記録によると、榎本先生の本学会入会日は1975年1月1日となっております。同年は本会の前身である日本毒作用研究会（医学・薬学のアカデミア研究者中心）が発足し、本会の学術年会の第1回目である第1回日本毒作用研究会が開催された年でもありました。正に榎本先生は本学会の第一世代の先達ということになります。榎本先生は毒性病理学分野において多くの後進の研究者を育てられました。1990年から1996年に本会の理事を務められ、2005年に功労会員、2009年に名誉会員にられました。ここに榎本眞先生に対し、本会への永年のご貢献への感謝の意を込めて、謹んでご冥福をお祈りいたします。

一社) 日本毒性学会
前理事長 務台 衛

熊谷嘉人教授の「佐藤哲男賞」受賞を祝う

日本毒性学会 (JSOT) 前理事長の熊谷嘉人教授が2023年「佐藤哲男賞」を受賞されました。心からお祝い申し上げます。先生の受賞はこれまでの国際的なご活躍を考えると当然と考えます。IUTOX Directorとしてのご活躍をはじめ、米国毒性学会 (SOT) と JSOT との架け橋となって多くの企画を完成させた功績は高く評価されます。また、JSOT の第3世代の一人として後継者の育成にも多くの努力を払われました。第4世代は世代交代により今後国内のみならず国際的な発展を遂げるに違いありません。

話は遡りますが、JSOT の第一世代の先生方は学会の創立と活動を軌道に乗せるために大きな力を注がれました。したがって、海外との交流は必ずしも活発ではなかった。第2世代になって留学などで得られた経験や海外の研究者との交流が活発になり、JSOT 年會に著名な研究者を招待するなど海外の情報が多く流入しました。第3世代の一人である熊谷教授は米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) に留学されて、滞在期間中に SOT を含む米国の多くの友人を得ました。そのご経験は JSOT の国際交流の基盤となっています。UCLA から帰国後、国立環境研究所にご勤務された後、筑波大学医学医療系環境生物学分野に転職されて、講師、教授として金属毒性、環境毒性の研究に多くの業績を挙げました。

熊谷先生は親電子性を有することが知られているヒ素及び多環芳香族炭化水素キノン体に着目し、酸化ストレスを誘発し、かつそれらが引き起こす生体影響の機構とそれに対する生体応答についての研究を広範に展開し、多くの論文を発表しています。

これらのご研究に対して多くの賞を受賞されました。2009年には「酸化ストレスおよび化学修飾を生じる環境物質を対象としたフィールドサイエンスと実験科学の融合」に対して日本薬学会学術振興賞を受賞されました。日本毒性学会においては、当該機関誌である J Toxicol Sci に刊行された年間優秀論文を表彰する田邊賞 (計5回) および高い引用回数を表彰するファイザー賞 (計3回) の受賞に加えて、2018年には日本毒性学会 学会賞を受賞されました。

熊谷教授はこれまで、環境中の親電子物質がタンパク質のシステイン残基と共有結合してタンパク質付加体を形成し、細胞内のレドックスシグナル系の活性化を介して生体応答することを明らかにしてきました。一方、我々が日常的に暴露される化学物質自身にタンパク質の化学修飾がなくても生体内酵素により反応性代謝物となり、このものがタンパク質付加体を形成する実態はほとんど理解されていない。熊谷教授は、民生品の中でカルボン酸の代謝活性化を介してヒストンのリジン残基を化学修飾し、エピジェネティクス変化を生じることを東京薬科大学・伊藤昭博教授との共同研究で明らかにしています。

一方、学会の運営に関しては、国際的には、2016 (ICT-XIV, メキシコ) -2019年から2019 (ICT-XV, ハワイ) -2022年まで IUTOX の Director として2期6年間国際的な活躍を果たされました。また、国内では2018年から2020年までは JSOT 理事長として同学会の発展に貢献されました。

JSOT の第3世代が築いた功績をさらに発展させるのが第4世代の責務であります。その中には JSOT の国内外での発展における女性の活躍があります。将来、学会運営に関わる立場、つまり理事、理事長として選出されることが期待されます。この点においても熊谷教授の長期間にわたる後継者の育成に関する功績は高く評価されます。

ご参考までに、SOT の場合は女性の進出が目覚ましい。現在の役員 (2023-2024) の中で、Vice President-Elect (Dr. Cynthia V. Rider), Vice President (Dr. Laurie C. Haws), President (Dr. Dori R. Germolec) は三人とも女性です。さらに、Councilor は7人中6人が女性です。

最後に、日本毒性学会はグローバルな躍動の中で発展すべきであると考えます。国際的に大きな業績を挙げられて、その実績をもとに本学会の発展に貢献された熊谷嘉人教授の功績は、今回の受賞に相応しいものと考え心からお祝い申し上げます。筆を擱く。

2024年8月

佐藤 哲男

JSOT 名誉会員

SOT 名誉会員

元 IUTOX Vice President

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第4報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

【第27回日本毒性学会基礎教育講習会】

本講習会はトキシコロジストの体系的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。また、トキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。講習は動画配信形式で行います。

1. 日時

2024年4月26日（水）～2025年3月31日（月）

2. 形式

オンデマンド動画配信

3. 申込

個人契約：終了しました。

団体契約：通年受付しております。

※学会ホームページ内、基礎教育講習会ページより、お申込みください。

4. 受講料

団体契約：25,000円

*領収書につきましては、参加証と一緒に送付いたします。宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。

*ダウンロード映像、資料の二次利用は固くお断りいたします。

【団体契約について】

同一企業あるいは団体に所属する複数名が同時に受講する場合にお申込み下さい。

本契約での動画視聴は、団体内での体系的な毒性学教育目的（新人/キャリア研修など）や大学等の教育機関での利用を想定しています。団体契約は代表者個人（毒性学会会員に限る）が申し込み、年間（年度）視聴権を得ます。代表者同席のもと複数人が同時視聴することを認めます（研修や講義のサポート教材としての利用を想定）。

※本契約で受講された場合は、受講証明書は発行されません。

認定トキシコロジスト試験 受験・更新資格のための評点として加算されませんので、ご注意ください。

【第27回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験】

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. スケジュール

2024年10月20日（日）/予備日：11月3日（日）
自然災害等により10月20日に試験開催が困難であると判断した場合に、予備日に実施します。なお、試験開催を延期する場合には、3日前（10月17日17時）までに受験者へご連絡いたします。

2. 会場（予定）

昭和大学 旗の台キャンパス

3. 受験料

30,000円

4. 出願期間

2024年8月1日（木）～8月31日（土）消印有効

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2004年, 2009年, 2014年, 2019年に認定トキシコロジストに認定された方となります。更新申請のための書類一式を7月上旬に郵送しております。

「認定トキシコロジスト試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼は7月中旬にお送りしております。締め切りは8月30日(金)です。なお, 可能な限り, 2018年3月発刊の「第3版トキシコロジー」からの出題をお願いいたします。

第52回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報）

（年会ホームページ：<https://www.jsot2025.jp/>）

1. 会期

2025年7月2日（水）～4日（金）

2. 会場

沖縄コンベンションセンター
〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4丁目3-1
TEL：098-898-3000
URL：<https://www.oki-conven.jp/>

3. テーマ

“Diversity in Toxicological Sciences for
Sustainable Environment and Human Health”

4. 年会長

黄 基旭
（東北医科薬科大学 薬学部 環境衛生学教室）

副年会長

平良 淳誠
（国立沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科）

5. 企画委員（敬称略・五十音順）

赤井 翔（中外製薬（株））
朝倉 省二（エーザイ（株））
安西 尚彦（千葉大学）
石塚真由美（北海道大学）
上原 孝（岡山大学）
小椋 康光（千葉大学）
北嶋 聡（医薬品食品衛生研究所）
齋藤 文代（岡山理科大学）
佐藤 雅彦（愛知学院大学）
篠澤 忠紘（武田薬品工業（株））
鈴木 睦（協和キリン（株））
高橋 祐次（医薬品食品衛生研究所）
武田 一貴（北里大学）
武田 志乃（量子科学技術研究開発機構）
角崎 英志（（株）新日本科学）
中島 美紀（金沢大学）
中西 剛（岐阜薬科大学）
中西 豊（アクセリード（株））
奈良岡 準（アステラス製薬（株））
長谷川 潤（神戸薬科大学）
原 俊太郎（昭和大学）
広瀬 明彦（（一財）化学物質評価研究機構）
福島 民雄（塩野義製薬（株））
藤代 瞳（徳島文理大学）
藤本 和則（第一三共（株））

松沢 厚（東北大学）
美谷島克宏（東京農業大学）
宮脇 出（住友ファーマ（株））
山本 千夏（東邦大学）
吉成 浩一（静岡県立大学）

6. 一般演題募集

一般演題（口演およびポスターでの発表）を2025年1月下旬から受け付ける予定です。
発表は会員のみとなりますので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。
日本毒性学会ホームページ：<https://www.jsot.jp>

7. 優秀研究発表賞応募演題

2025年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。

8. 学生ポスター発表賞応募演題

学術年会（2025年7月2日（水））の時点で学生（大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く）のポスター発表（筆頭著者）の方を対象として候補者を募集します。

※7、8の賞への重複申請は不可とします。

9. 特別企画

年会長招待講演，特別講演，教育講演，シンポジウム，ワークショップ，キャリア形成支援プログラム，市民公開セミナーを企画予定です。

10. ランチョンセミナーなどの募集

ランチョンセミナー，広告掲載，企業・関連団体展示を募集します。詳細については追ってご案内します。

11. 参加登録と演題申込

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。
詳細についてはホームページをご覧ください。
年会ホームページ：<https://www.jsot2025.jp/>

12. 年会事務局

〒981-8558 宮城県仙台市青葉区小松島4-4-1
東北医科薬科大学 薬学部 環境衛生学教室
E-mail: secretariat@jsot2025.jp

第51回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第51回日本毒性学会学術年会の要旨集（CD-R版のみ）を3,500円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第32回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500円

通信欄記入事項：①住所②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第51回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送付いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：一般社団法人 日本毒性学会
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

2025年度日本毒性学会 学会賞 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満65歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員

表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Wordファイル）は日本毒性学会ホームページ（<https://www.jsot.jp/award/index.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000字以内）
- ・学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去5年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般演題リスト（共同著者の演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2024年12月31日（火）

2025年度日本毒性学会 特別賞 候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格: 日本毒性学会非学会員

推薦者の資格: 日本毒性学会理事

表彰: 授賞者数は毎年, 最大1名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演: 受賞者 (あるいは代理人) は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦: 理事1名の推薦を必要とする。推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛 (事務局) に電子メールで提出する。なお, 所定用紙 (Word ファイル) は日本毒性学会ホームページ (<https://www.jsot.jp/award/special.html>) からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書 (候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの)
- ・推薦理由 (1,000字以内)
- ・特別賞の対象となる業績目録: 原著論文, 総説・著書, 学会主催, 発表等

推薦書類の送付先: jsotq@jsot.jp (日本毒性学会事務局)

推薦締切: 2024年12月31日 (火)

2025年度日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞） 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会佐藤哲男賞（国際貢献賞）を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員

表彰：授賞者数は毎年、最大1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（あるいは代理人）は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Wordファイル）は日本毒性学会ホームページ（<https://www.jsot.jp/award/satou.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・佐藤哲男賞（国際貢献賞）の対象となる業績目録：原著論文、総説・著書、学会主催、発表等

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2024年12月31日（火）

2025年度日本毒性学会 学会貢献賞 候補者推薦要領

本会における学会活動の貢献に敬意を表し、日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に授与する。

候補者の資格：現に20年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員

表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<https://www.jsot.jp/award/academic.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴、本会における委員等の職歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000字以内）
- ・学会貢献賞の対象となる業績目録：学会の活動に貢献した具体的な業績

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2024年12月31日（火）

2025年度日本毒性学会 奨励賞 候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に3年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員

表彰：授賞者数は毎年3名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<https://www.jsot.jp/award/encourage.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2000字以内）
- ・奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去3年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2024年12月31日（火）

その他のお知らせ

第 31 回日本免疫毒性学会学術年会

年会長 黒田 悦史
(兵庫医科大学医学部免疫学講座)

このたび、第 31 回日本免疫毒性学会学術年會を、2024 年 9 月 19 日 (木) および 20 日 (金) に兵庫医科大学平成記念会館にて開催する運びとなりました。関西地区での開催は第 22 回大会以来 9 年ぶりであり、再び関西地区で皆様をお迎えできることを大変嬉しく思っております。

本年会のテーマは「免疫毒性研究から環境・医療をみつめる」といたしました。開催地である兵庫医科大学は、CAR-T 療法や免疫チェックポイント阻害療法といった先端医療の拠点であるとともに、環境化学物質であるアスベストの健康被害への対応で知られ、悪性胸膜中皮腫の症例数は全国でもトップレベルです。私自身も環境化学物質による免疫毒性研究およびワクチン・アジュバントの開発研究に取り組んでおり、その両方の分野で本学会には大変お世話になってまいりました。そのような経緯から、環境と医療の両方に焦点を当てた年會を開催したいという思いを込め、今回のテーマとプログラムを企画いたしました。

1 日目のサブテーマは「環境と免疫毒性」とし、特別講演では東京医科大学の善本隆之先生による化学物質の感作性評価法に関する特別講演を予定しております。また、環境とアレルギーに関する最新知見をテーマにシンポジウムを開催し、最先端のアレルギー研究について議論を深める機会としたいと考えております。2 日目のサブテーマは「医薬品開発 有効性と安全性」とし、医薬基盤健康栄養研究所の保富康宏先生に霊長類モデルを用いたワクチン開発研究についてご講演いただき、その後、新しいワクチンや免疫療法の開発に焦点を当てたシンポジウム企画しております。このように幅広い分野を議論できる年會となっております。

会場である兵庫医科大学の最寄り駅は、阪神電鉄の武庫川駅です。大阪梅田および神戸三宮からのアクセスもよく、特に梅田からは急行で 12 分という便利な場所がございます。さらに本学会では初年度年会費無料制度を実施しております。初めて本学会にご参加およびご発表いただく方には、初年度の年会費を無料とさせていただきます。免疫毒性学会にご興味のある皆様には、ぜひこの制度をご活用いただき、アクセス抜群な本年會にご参加いただければ幸いです。

年会 URL
<https://www.japanimmunotox.org/jsit2024/>

日本動物実験代替法学会第 37 回大会のご案内

日本動物実験代替法学会第 37 回大会を、栃木県宇都宮市のライトキューブ宇都宮において 2024 年 11 月 29 日 (金) ~ 12 月 1 日 (日) の 3 日間にわたり開催いたします。

本大会のテーマは「動物実験代替法の新たな潮流と社会実装への取り組み」といたしました。本学会員だけでなく様々な研究領域の方々にもぜひともご参加いただき、代替法に対するサイエンスの観点だけでなく、日本で、世界で、より活用されるための『実装化』の観点からも、ぜひ活発に議論していただければと思います。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

開催概要

会 期 2024 年 11 月 29 日 (金) ~ 12 月 1 日 (日)

会 場 ライトキューブ宇都宮

大会長 坂口 斉 (花王株式会社)

ウェブサイト <https://jsaae37.secand.net/index.html>

プログラム

特別講演 1 西田 幸二 先生

(大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学 (眼科学 / 大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点))

特別講演 2 小島 肇 先生

(山陽小野田市立山口東京理科大学 工学部 医薬工学科 / 国立医薬品食品衛生研究所)

教育講演 相場 節也 先生

(医療法人松田会 松田病院皮膚科)

シンポジウム 1

Current International Trend of Next Generation Risk Assessment (NGRA)

シンポジウム 2

医療機器分野における動物実験代替法の開発状況及び企業の取り組み

シンポジウム 3

実験動物としての NHP (非ヒト霊長類) の現状と動物実験代替法開発の取り組み

シンポジウム 4

次世代リスク評価 (NGRA) における曝露評価: キープレイヤーとしての期待と課題

シンポジウム 5

学際融合に基づく動物実験代替デバイスの新たな潮流

シンポジウム 6

社会人ドクターの魅力と現実

シンポジウム 7

全身毒性代替法の社会実装を目指して
-ゼブラフィッシュを用いる生殖毒性試験開発と医薬部外品申請における NGRA の活用-

シンポジウム 8

MPS の社会実装を目指して

シンポジウム 9

食品分野の NAMs 検討から社会実装に向けた取り組み

シンポジウム 10

皮膚感作性評価の最前線

シンポジウム 11

化学物質の規制安全性評価に資する in silico 予測：信頼性
確保へ向けた新たな展開

大会運営事務局

株式会社コーエイ・エージェンシー

〒370-0845 群馬県高崎市新後閑町 4-2

TEL：027-323-7417 FAX：027-325-9564

E-mail：jsaae37@koei-agency.com

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

2022年9月2日付で「研究倫理要綱」と「研究倫理問題に関する規程」が新たに制定されました。学会ホームページでご確認をお願いします。

一般社団法人日本毒性学会 定款

- 一般社団法人日本毒性学会 研究倫理要綱
- 一般社団法人日本毒性学会 研究倫理問題に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam.Toxicol.Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針

高い再現性と信頼性で短期発がん性試験を実現したモデルマウス

rasH2 マウス

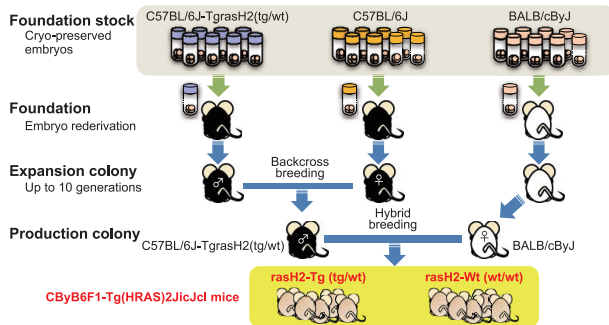


rasH2マウスは(公財)実中研、東海大学医学部、国立がんセンター研究所(当時)との共同研究により開発されました。(Saitoh A. et al., Oncogene. 1990)。その後1993年に実中研で発がん性評価試験の実用化を開始、1997年から2001年の5年間における日米欧の産官学50施設の国際共同研究(ILSI/HESI)によってrasH2マウスの高い発がん性評価の再現性、安定性が証明されました。当社では、2001年より本格的生産・供給をしております。

2024年現在、遺伝子改変マウスによる短期発がん性試験のスタンダードモデルとして認知され、世界各国で利用頂いております。

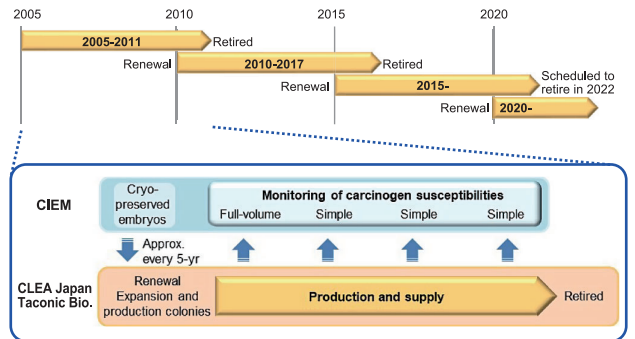
rasH2マウス:生産システム

- ◆ rasH2マウスの“発がん感受性”を永続的・安定的な維持と安定供給のためにデザインされた生産システム



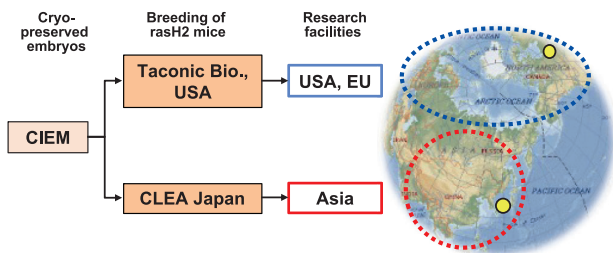
rasH2マウス:品質管理システム

- ◆ rasH2マウスの“発がん感受性”を確認・保証するためにデザインされた品質管理システム



rasH2マウス:グローバルな安定供給体制

- ◆ 日本クレア、Taconic Biosciencesにて、定められ生産システムに基づきrasH2マウスを生産し、世界各国に供給しています。



発がん性試験が実施された医薬品の承認状況

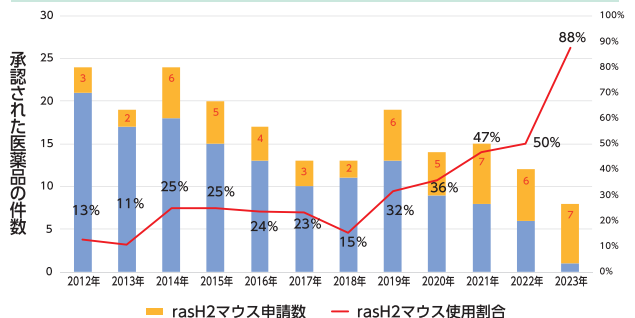


図: 日本国内の発がん性試験推移 (PMDAのHPより独自調査)

受注センター
 東京AD部 〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7
 大阪AD部 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町6-5
 仙台出張所 〒983-0014 宮城県仙台市宮城野区高砂1-30-24
 札幌出張所 〒063-0849 北海道札幌市西区八軒9条西10-4-28
 名古屋出張所 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社3-79

TEL.03-5704-7123 FAX.03-3792-2368
 TEL.03-5704-7050 FAX.03-3792-2032
 TEL.06-4861-7101 FAX.06-4861-7108
 TEL.022-352-4417 FAX.022-352-4419
 TEL.011-631-2725 FAX.011-644-9209
 TEL.052-715-7580 FAX.052-715-7590



日本クレア株式会社

CLEA-Japan.com





SNBL



環境、生命、人材 を大切にしている会社であり続ける



1957年創業

日本初の非臨床試験受託機関



霊長類の安全性研究で世界最大級の施設

自家繁殖機能を拡大、安定供給を実現



国内No.1の試験実績で

世界水準の技術力を世に提供



株式会社新日本科学

Web: <https://www.snbl.co.jp/> Email: info@snbl.com



新製品のご案内

新しい肝細胞製品の取り扱いを開始いたします

HepaSH®



a standardized research tool for liver biology and drug discovery

• H • E • P • A • S • H



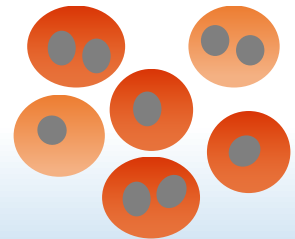
CIEM's hu-liver technology

Reconstitution of hu-liver



Standardization of hepatocytes by homogeneous environment

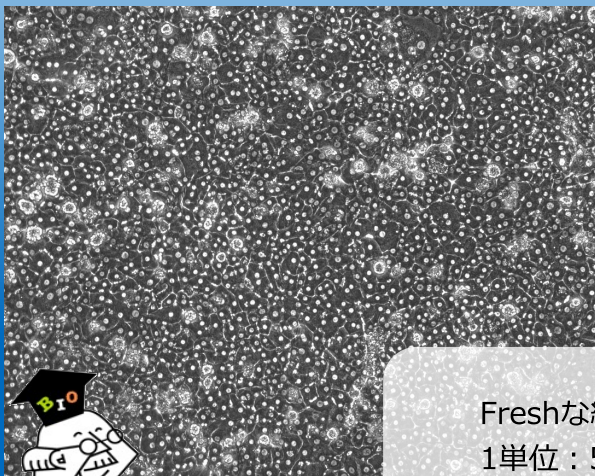
Isolation



HepaSH cells
HLA⁺>95%

HepaSH®とは、

TK-NOGマウスの体内で再構築させたヒト化肝臓から単離調製した新しい肝細胞です



- ✓ The experimental human hepatocytes(EHH) produced by advanced technologies of CIEM.
- ✓ HepaSH® cells demonstrate the standardized physiology of human hepatocytes.
- ✓ Ready-to-go plate (classic 2D, sandwich, 3D, MPS etc)

Freshな細胞をサスペンション状態でお届けいたします。
1単位：5×10⁶ viable cells /mL です。



お問い合わせ先

▶ 試薬営業グループ

TEL:03-5807-7162 FAX:03-5807-7163

e-mail: shiyaku-info@kacnet.co.jp



<https://www.saibou.jp/>



弊社取り扱い製品情報を掲載しております

SLCの実験動物



マウス

- **アウトブリード**
Slc : ddY
Slc : ICR
- **インブリード**
DBA/1.JmsSlc(コラーゲン薬物誘導関節炎)
BALB/cCrSlc
C57BL/6NCRSlc・C57BL/6.JmsSlc(J由来)
C3H/HeSlc
C3H/HeNSlc
C3H/HeYokSlc
DBA/2CrSlc
NZW/NSlc
A/JmsSlc
AKR/NSlc
NC/NgaSlc(薬物アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)
CBA/NSlc
129x1/SvJmsSlc
- **B10コンジェニック**
C57BL/10SnSlc
B10.A/SgSnSlc・B10.BR/SgSnSlc
B10.D2/nSgSnSlc・B10.S/SgSlc
- **ハイブリッド**
B6D2F1/Slc(Slc:BDf1)
CB6F1/Slc(Slc:CBF1)
CD2F1/Slc(Slc:CDF1)
B6C3F1/Slc(Slc:B6C3F1)
(NZW)BXSB)F1/Slc受注生産
※上記以外の系統については御相談ください。
- **ヌードマウス(ミュータント系)**
BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1^{nu}*)
KSN/Slc(*Foxn1^{nu}*)
- **疾患モデル**
BXSb/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)
C3H/HeJmsSlc-*Jpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
C57BL/6JmsSlc-*Jpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
MRL/MpJmsSlc-*Jpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
NZB/NSlc(自己免疫疾患)
NZBWF1/Slc(自己免疫疾患)

- WBB6F1/Kiit-*Ki^{fl}/Ki^{fl}*Slc(肥満細胞欠損鼠血-*Ki^{fl}/Ki^{fl}*)
NC/Nga(皮膚炎)
★ SAMR1/TaSlc(非胸腺リンパ腫-SAM系対照動物)
★ SAMP1/SkuSlc(老化アミロイド症)
★ SAMP6/TaSlc(老年性骨粗鬆症)
★ SAMP8/TaSlc(学習・記憶障害)
★ SAMP10/TaldrSlc(脳萎縮・うつ様行動)
★ SAMP10-△Sgt2(SGT2変異による慢性糖尿・脳萎縮に伴う学習記憶障害・うつ様行動)
AKITA/Slc
C57BL/6HamSlc-*ob/ob*(肥満・2型糖尿病-*Lep^{ob}*)
HIGA/NscSlc(IgA腎症)
B6.KOR/StmSlc-*Apoe^{fl}*(アポE欠損高血圧症-*Apoe^{fl}*)
C.KOR/StmSlc-*Apoe^{fl}*(アポE欠損高血圧症-*Apoe^{fl}*)

ラット

- **アウトブリード**
Slc : SD
Slc : Wistar
Slc : Wistar/ST
- **インブリード**
F344/NSlc
BN/NSlc
DA/Slc(薬物誘導性関節炎)
LEW/NSlc(薬物誘導性関節炎)
- **ヌードラット**
Slc : Long-Evans-*rnu/rnu*
- **疾患モデル**
★ SHR/izm(高血圧)
★ SHRSP/izm(脳卒中)
★ WKY/izm(SHR/izmのコントロール)
★ SHRSP/Ezo(AD/HD)
★ SHRSP/Dmcr(NASHモデル[HFC飼料給餌])
DIS/EisSlc(食塩感受性高血圧症)
DIR/EisSlc(食塩抵抗性)
Slc : Zucker-*fa/fa*(肥満-*Lep^{fl}*)
HWY/Slc(ヘアレスラット)

モルモット

- **アウトブリード**
Slc : Hartley

ウサギ

- **アウトブリード**
Slc : JW/CSK
Slc : NZW

ハムスター

- **アウトブリード**
Slc : Syrian
- **疾患モデル**
J2N-k(心筋症モデル)
J2N-n(J2N-kのコントロール)

スナネズミ

- **インブリード**
MON/Jms/GbsSlc

無菌動物

- **インブリードラット**
F344/NSlc(GF)
- **インブリードマウス(三協ラボサービス株)**
Tsl : C57BL/6NCR

遺伝子改変動物

- **マウス**
C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)
C57BL/6JmsSlc-Tg(*gpt* delta)
- **ヌードマウス**
C57BL/6-BALB/c-*nu/nu*-EGFP(EGFP全身発現ヌードマウス)
- **ラット**
SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)
F344/NSlc-Tg(*gpt* delta)
- **高度免疫不全マウス**
BRJ(BALB/cRag-2-/-/Jak3-/-)
- **ALSモデルラット**
Slc : SD-Tg(SOD1H46R-4)
- **疾患モデル**
★ APPOSK-Tg[C57BL/6-Tg(APP^{sw})](オコノマ病理-老人斑形成なし)
★ APPWT-Tg[C57BL/6-Tg(APP^{wr})](APPOSKの対照動物)
★ Tau609 Tg[C57BL/6-Tg(*tau*609)](タウ病理)
★ Tau784 Tg[C57BL/6-Tg(*tau*784)](タウ病理)
★ Tau264 Tg[C57BL/6-Tg(*tau*264)](Tau609, Tau784の対照動物)
—ノックインマウス—
★ OSK-Ki[C57BL/6-Tg(OSK-Ki)](マウスAβを産生)
(特許第6323876号)

(株)星野試験動物飼育所

- **アウトブリードマウス**
Hos : HR-1(ヘアレス)
- **ハイブリッドマウス**
Hos : HRM2(メラニン保有)
- **アウトブリードラット**
Hos : OLETF(2型糖尿病)
Hos : LETO(OLETFの対照動物)
Hos : ZFDM-*Lep^{fl/fl}*(2型糖尿病)

(一財)動物繁殖研究所

- **インブリードマウス**
IVCS(4日周期)
C57BLKS/Jlar-+*Lep^{fl}/+Lep^{fl}*(肥満2型糖尿病)
TSOD(肥満2型糖尿病)
- **アウトブリードラット**
Iar : Wistar-Imamichi
Iar : Long-Evans

エンヴィーゴ(旧ハーランOEM生物動物)

- **アウトブリードラット**
★ RccHan® : WIST
- **インブリードマウス**
★ CBA/CaOlaHsd
- **免疫不全モデルマウス**
★ C.B-17/ICrHsd-*Prkdc^{scid}*

その他(conventional動物)

- **ミニプタ**
☆(一財)日生研-NPO法人医用ミニプタ研究所
- **マイクロミニピッグ**
☆国内繁殖生産(富士マイクロ(株))
- **医学用ペビーブタ(SPPF)SHIZUOKA EXPIG**
☆静岡県畜産技術研究所中家畜研究センター
- **ビーグル犬**
☆国内繁殖生産((一財)動物繁殖研究所)
- **フェレット**
自家繁殖生産(中伊豆支所)
- **コモンマーモセット**
★印は受託生産動物、☆印は仕入販売動物です。



日本エス エル シー株式会社
〒431-1103 静岡県浜松市中央区湖東町3371-8
TEL(053)486-3178(代) FAX(053)486-3156
<http://www.jslc.co.jp/>

営業専用
TEL

関東エリア (053)486-3155(代)
関西エリア (053)486-3157(代)
九州エリア (0942)41-1656(代)

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員 (就任年度順)]

今道 友則	池田 正之	加藤 隆一	井村 伸正
佐藤 哲男	渡辺 民朗	小野寺 威	遠藤 仁
鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄	長尾 拓
福高 昭治	津田 修治	吉田 武美	堀井 郁夫
大野 泰雄	上野 光一	山添 康	永沼 章

[功労会員 (就任年度順)]

高伸 正	前川 昭彦	佐藤 温重	安田 峯生
大沢 基保	今井 清	降矢 強	玄番 宗一
唐木 英明	仮家 公夫	暮部 勝	野村 護
牧 栄二	三森 国敏	佐神 文郎	遠山 千春
小野寺博志	杉本 哲朗	西田 信之	中村 和
姫野誠一郎	眞鍋 淳	安仁屋洋子	横井 毅
久田 茂	青木 豊彦	山田 久陽	天野 幸紀
菅野 純	佐藤 雅彦	苗代 一郎	中江 大
鰐淵 英機			

[賛助会員 (五十音順)]

●ダイヤモンド

(株)新日本科学

●プラチナ

第一三共(株)

●ゴールド

旭化成ファーマ(株)

アステラス製薬(株)

EAファーマ(株)

エーザイ(株)

小野薬品工業(株)

一般財団法人化学物質評価研究機構

杏林製薬(株)

興和(株)

サントリーホールディングス(株)

塩野義製薬(株)

シミックファーマサイエンス(株)

住友化学(株)

ゼリア新薬工業(株)

大正製薬(株)

武田薬品工業(株)

中外製薬(株)

東レ(株)

日本香料工業会

ファイザー(株)

扶桑薬品工業(株)

Meiji Seika ファルマ(株)

持田製薬(株)

ヤンセンファーマ株式会社

あすか製薬(株)

(株)安評センター

(株)イナリサーチ

大塚製薬(株)

花王(株)

科研製薬(株)

協和キリン(株)

三栄源エフ・エフ・アイ(株)

(株)三和化学研究所

(株)資生堂

住友ファーマ(株)

(一財)生物科学安全研究所

千寿製薬(株)

大鵬薬品工業(株)

田辺三菱製薬(株)

トーアエイヨー(株)

(一社)日本化学工業協会

日本新薬(株)

富士フィルム(株)

(株)ボゾリサーチセンター

メディフォード(株)

(株)薬物安全性試験センター

ライオン(株)

[委員会] (2024 ~ 2025 年度) ●印: 常置委員会 ◆印: 小委員会

● 理事長		広瀬 明彦
● 総務委員会	委員長	藤原 泰之
● 財務委員会	委員長	朝倉 省二
● 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
● 教育委員会	委員長	土屋 由美
● 学術広報委員会	委員長	吉成 浩一

[委員会] (2022 ~ 2023 年度) ●印: 常置委員会 ◆印: 小委員会

● 理事長		務台 衛
● 総務委員会	委員長	小椋 康光
◆ 連携小委員会	委員長	上原 孝
◆ 評議員選考小委員会	委員長	佐藤 雅彦
◆ 名誉会員および功労会員選考委員会	委員長	小椋 康光
◆ 指針値検討小委員会	委員長	広瀬 明彦
◆ 企画戦略小委員会	委員長	宮脇 出
◆ ダイバーシティ推進 WG	WG 長	安西 尚彦

● 財務委員会

委員長 森 和彦

● 編集委員会

委員長	鍛冶 利幸
副委員長	古武弥一郎
副委員長	藤原 泰之
副委員長	鍛冶 利幸
副委員長	古武弥一郎
副委員長	藤原 泰之
委員長	永沼 章
委員長	永沼 章
委員長	宮脇 出
委員長	古武弥一郎

◆ JTS 編集委員会

委員長	鍛冶 利幸
委員長	古武弥一郎
委員長	藤原 泰之
委員長	永沼 章
委員長	永沼 章
委員長	宮脇 出
委員長	古武弥一郎

◆ FTS 編集委員会

委員長	永沼 章
委員長	永沼 章
委員長	宮脇 出
委員長	古武弥一郎

◆ Executive Editor 小委員会

委員長 古武弥一郎

◆ 田邊賞選考小委員会

委員長 古武弥一郎

◆ 毒性学ニュース編集委員会

委員長 古武弥一郎

● 教育委員会

委員長 高橋 祐次

(小委員長・委員は10月末で交代)

◆ 生涯教育小委員会

委員長 黄 基旭

◆ 基礎講習会小委員会

委員長 橋本 清弘

◆ 認定試験小委員会

委員長 福島 民雄

◆ トキシコロジー 4ed. 編集 WG

WG 長 鈴木 睦

● 学術広報委員会

委員長 児玉 晃孝

◆ 学会賞等選考小委員会

委員長 上野 光一

◆ 佐藤哲男賞・学会貢献賞 選考小委員会

委員長 姫野誠一郎

◆ 特別賞等選考小委員会

委員長 上野 光一

◆ 技術賞選考小委員会

委員長 三島 雅之

◆ 日化協 LRI 賞選考小委員会

委員長 渋谷 淳

◆ 学術小委員会

委員長 吉成 浩一

◆ 広報小委員会・HP 担当

委員長 児玉 晃孝

◆ トピックス小委員会

副委員長 宮内 慎

委員長 中西 剛

その他関連の委員会

○ IUTOX 担当	
Executive Committee, Director	広瀬 明彦
○ ASIATOX 担当	
ASIATOX Councilor	田口 恵子
○ SOT 担当	熊谷 嘉人
○ 日本学術会議担当	
委員	石塚真由美

部 会

○ 生体金属部会	部会長 佐藤 雅彦
○ 医薬品毒性機序部会	部会長 北嶋 聡
○ 付加体科学部会	部会長 上原 孝

[役員] (2024 ~ 2025 年度)

理事長	広瀬 明彦		
理 事	朝倉 省二	浅沼 幹人	阿部 (富澤) 香織
	安西 尚彦	鍛冶 利幸	北嶋 聡
	鈴木 睦	田口 恵子	土屋 由美
	奈良岡 準	南谷賢一郎	西村 泰光
	黄 基旭	藤村 成剛	藤原 泰之
	宮内 慎	務台 衛	山本 千夏
	吉成 浩一		
監 事	杉山 篤	三浦 伸彦	

[学術年会長]

第 51 回 (2024 年)	上原 孝
第 52 回 (2025 年)	黄 基旭
第 53 回 (2026 年)	宮脇 出
第 54 回 (2027 年)	安西 尚彦

2024年8月1日 印刷

2024年8月1日 発行

発行人 広瀬 明彦
編集人 鍛冶 利幸
毒学ニュース編集委員会委員長 古武 弥一郎

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
(株)毎日学術フォーラム
一般社団法人日本毒性学会事務局
TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555
E-mail : jsotq@jsot.jp
振替 00150-9-426831
<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社 センキョウ
〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2
TEL (022) 236-7161